



図書館は、様々な知識や情報を「本」という形で集積してきたことから、「知の宝庫」と言われます。人々は、図書館で本を「借り・読み・調べる」ことで、先人の知恵や業績に触れ、学び、知識を吸収して、知性や人間性を高めてきました。このことが読書の意義であり、長年、図書館が果たしてきた重要な役割です。

中央図書館は、毎日、平均1,700人以上の利用者が訪れます。一方、情報を求める利用者の多くは、知識や経験に基づく様々な情報を持っています。この利用者が持つ情報や図書館に集まる情報を、市役所をはじめとした公共機関や民間の組織・団体などと有機的に結び付けることができれば、「知の宝庫」である図書館を核としたまちづくりの新たな展開も期待できます。

そこで、中央図書館では、単に利用者を待つ施設から、新たな一步を踏み出す拠り所として、この度、「市原市図書館サービス計画」を策定しました。図書館の持つ潜在能力を十分に活かし、情報を媒介に人と人、人と組織・団体をつなぐ新たな取り組みが、今始まろうとしています。

本市は、平成25年に市制施行50周年を迎えますが、この計画の着実な推進を図り、人とまちがともに輝く生涯学習社会を築いてまいります。市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、この計画の策定にあたり、貴重なご意見を賜りました皆さまに、心からお礼を申し上げます。

平成24年2月

市原市長 **佐久間 隆義**